

2019年 今年の抱負

新年恒例？この人たちの今年の抱負です。

勝野 電気事業連合会会長 2019年1月18日

(参考資料①)

原発

原子力発電につきましては、引き続き、再稼働したプラントの安全・安定運転の実績を着実に積み上げていくとともに、先行している PWRに加え、BWRにつきましても、**一日も早く再稼働できるよう新規制基準適合性審査に全力で対応してまいります。**

核燃サイクル

ウラン資源の有効活用、廃棄物の減容・有害度低減などの観点から、**原子燃料サイクルは極めて重要**であると考えております。

(中略)

原子力事業者といたしましても、業界一丸となって、日本原燃を全面的に支援していくとともに、使用済燃料対策推進計画の実現や、プルトニウム保有量の着実な削減などの取り組みを進めてまいります。

放射性廃棄物

高レベル放射性廃棄物の最終処分につきましては、
(中略)

引き続き、国や NUMO とともに連携しながら、地域の皆さまとの対話活動を通じて、**最終処分に関するご関心やご理解が深まるよう取り組んでまいります。**

今井 原子力産業協会会長 2019年1月11日

(参考資料②)

原発

私どもがこの原子力発電について力を入れております理由は、世界的な気候変動問題でございます。(中略)中心になるのはCOP21のパリ協定でございます。ここで日本は2013年度に比べて2030年度までに温室効果ガスを26%減らすという約束をしております。(中略)

現在の自然災害が増えていることも、環境問題が影響しているのではないかと言われております。従いまして、これをやはり最優先に取り上げないといけません。この観点が日本には欠けていると思います。現在の世論では、原子力反対という空気が強いわけですが、環境問題をベースにして原子力の賛成者を増やしていかなければならないと思っているところでございます。

核燃サイクル

なぜ再処理が必要かということは明らかで、日本は自給率が低いいためプルトニウムを取り出して、エネルギーに使う、そしてプルトニウムを取り出すことによって廃棄物の量が大幅に減少し、また放射性物質も大きく減ります。再処理はこのような点で貢献するので、是非進めなければなりません。

放射性廃棄物

高レベル放射性廃棄物の最終処分場の立地については、(中略)是非、今年、何がしかの進展があればと期待しているわけでございます。

最後に一言

私が思う原発の最大の問題は、人間の想像を超えた時間スケールで生命に悪影響を及ぼす放射性廃棄物。今回紹介した人たちって、高レベル放射性廃棄物は埋める場所さえ決まればOKって思ってるように見えるんです。でも本当はそれはただの第一歩。数千年後の生命(人間じゃないかも)が間違っって掘り出さないようにするにはどうするか? そんなことまで本気で考えなきゃいけないのがこの問題です。とにもかくにもスタートはこれ以上ゴミを増やさないことのはずなんです。

参考資料

①電事連HP「電事連会長定例記者会見」2019年1月18日『2019年の課題と抱負』

http://www.fepec.or.jp/about_us/pr/kaiken/index.html

②日本原子力産業協会HP「日本原子力産業協会「原子力新年の集い」今井会長年頭挨拶」

<https://www.jaif.or.jp/chairmans-new-year-message2019>